

アライの人間はバイクが好きです。だから、バイクを取り巻く環境についても、いろいろ考えます。ついては、ライダーの皆様には是非とも考えたいことがあります、お話しさせて頂くことにしました。

●  
 先ず、バイクの生い立ちを考えて下さい。我が国のバイクは戦後の混乱期に生まれました。そして、人や荷物を運搬する手段として活躍しました。しかし、当時のバイクは四輪を買えない人たちの乗り物。「いつかは四輪」それがバイクに乗る人々の夢でした。やがて、交通運輸のシステムが整備され、生活水準も上がってくると、レジャーでバイクに乗る人も出てきました。だが、「いつかは四輪」それまでの足でした。四輪を買えない人々の乗り物であったバイクの暗い過去です。✓

## バイクに乗るつて

この事実気付いてない人が多すぎる。暗い昔ばかり覚えていて、バイクを見下すような風潮が世間の一部に残ってるのは残念です。

●  
 一方、ライダーの方にも、バイクの社会的地位がその昔とは違ったことに気付かない人が残ってる。中には、世を拗ねたようなライダーまでいる。バイクが何かと白い目で見られるのも、そんな処に原因があるかもしれません。そんなこんなが重なって、バイクは峠道から閉め出されてる。何とかしなければとの思いから、お話をしています。

●  
 そこで、借越とは存じますが、あえて提言させて下さい。世の認識を変える為には、先ず、我々ライダー自身が考えを変えましょう。今やバイクは選ばれた人だけに許されるレジャ

# すごいんだ！

ところが、今日のバイク事情を考えて下さい。四輪は誰でも持っています。バイクを持つ人は、四輪の他に高いバイクを持つ経済的なゆとりのある人です。その面からいえば、今やバイクは、ゴルフと並ぶ、社会的なエリートのレジャー／スポーツです。しかも、お金と道具があれば済むゴルフと違い、バイクには三輪免許という厳しい資格が要求されます。これを考えれば、現代に於けるバイクはゴルフ以上の資格が問われるレジャー／スポーツである、といっても過言ではありません。

●  
 暗い過去からスタートしたバイクも、今では、経済的な余裕のある人たちのレジャー／スポーツになりました。バイクに乗りたくても乗れない人々が沢山いる。ライダーは、そういう人々の憧れです。それなのに、世の中には、

—／スポーツです。バイクという高価な機材を遊びの為に持つ、ゆとりのある人がライダーです。ライダーは社会のエリートです。この事実をしっかり認識して、世の中に対してもっと胸を張ろうではありませんか。

●  
 人は自信を持つと、態度が落ち着く。ライダーが自信を持てば、事故も減るでしょう。そうすれば、高速道路の二人乗り禁止も、自ずと解決するはずで。それは先ず、ライダー自身が自分の地位を認識することです。バイクに乗れるのは社会のエリートです。ライダーはそれを自覚して、「自分はすごいんだ！」と自信を持つことです。

●  
 バイクを愛するからこそその発言、身の程をわきまぬ奴と、気に障ったらお許し下さい。

